

第8-4号

# 耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和元年8月10日(土)

## 『耕人塾』の「ゴミ拾い活動」が市民への意識改革へ

8月1日(木)川開き祭り当日に第5回『耕人塾』を実施しました。今年で4年目になる恒例のゴミ拾い活動は午前9時半からと午後1時からの2回実施し、述べ50人以上の人達に参加していただきました。前日の前夜祭では東京ディズニーリゾートスペシャルパレードなどがあり、まちが汚れていると思ったら昨年以上にきれいでした。すでに商店の方々等がゴミ拾いをしてくれたのだらうと思います。午前の部のゴミ拾い活動では、路上の小さなゴミまで拾ってくれた塾生のお陰で、祭り本番はきれいな環境でスタートできました。石巻市環境リーダーの会や宮城県産業資源循環協会石巻支部、いしのみき環境ネット、石巻青年会議所等との連携が広がり、ゴミ拾い活動が市民にまで広がりつつあることを嬉しく思います。このような市民の意識の変化は、塾生の主体的な取り組みが少しずつ浸透してきた結果だと思えます。

今回は、2年前に石巻市環境推進協議会長賞を受賞した佐々木竜登君の「まちがきれいになるまで」(当時河南東中学校2年)を紹介(一部略)します。佐々木竜登君は現在石巻高校1年生で、4年連続して『耕人塾』に入塾して活動しています。

私は、まちをきれいにしたいと思っています。そのために耕人塾という団体に、挨拶、清掃、ゴミ拾いを行っています。その活動の中でたくさんのゴミがいろいろな場所で見つかります。そこで私は、どうしたらまちがきれいになるかを三つ考えました。

一つ目は、意識です。まずはまちの人達がゴミのポイ捨てを意識することが大事だと思います。私もポイ捨てを意識することで、ペットボトルをポイ捨てした友達に注意をすることができました。だから、まずは意識をして改善することが大事だと思います。

二つ目は、まちの人や他のところから来た人に呼びかけをすることも大事だと思います。ポスターに興味を持ってもらったり、市内放送や、新聞、テレビなどのメディアを使って、呼びかけたりすることが必要だと思います。さらに、それらを覚えてもらうために、覚えやすいキャッチコピーや、マスコットなどを考えて、呼びかけを活性化させることも大事だと思います。私も耕人塾で実際にキャッチコピーを作って、川開きのときにゴミステーションで使ってたくさんのゴミを集めることができました。

三つ目は、活動です。石巻駅周辺や、女川駅周辺では、ゴミ袋約十袋分ものゴミがありました。道路やまちの花壇や草の陰などをよく見ると、いろいろなゴミがあります。川開きの後のゴミ拾いをしましたが、道路や建物と建物の間などにゴミが大量にありました。中には食べカスや飲みかけのジュースが残っていたり、分別されないまま一つの袋に入っていたり、集めるのがとても大変でした。でも、まちが少しでもきれいになってくれてよかったです。まちにはゴミがいっぱいあるので活動は大事だと思います。

この三つのことを続けてまちがきれいになるまで活動をしていきたいです。

体験に基づいた具体的な提案で素晴らしい内容ですね。『耕人塾』での「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」活動を通じて、「世界に誇れる石巻地域」にしていきたいと思います。

### 山崎恵梨香さん(石巻北高・飯野川校3年、耕人塾塾生) 全国高校定時制・通信制体育大会出場

山崎さんは連続3回目の『耕人塾』塾生です。山崎さんは8月9~12日に駒沢オリンピック公園陸上競技場で開催される標記大会の400メートルと円盤投げに3年連続出場します。昨年は両種目とも予選敗退に終わったので「悔しかった分、諦めずに今年の大会を目指してきた。全力を出して入賞したい。『耕人塾』の宿泊研修には参加できないが、みんなの分まで頑張りたい。」と抱負を話してくれました。全国入賞できるようみんなで山崎さんを応援しましょう。